

輸入食品・ 報道現場からの問題意識

2010年1月25日
食品に関するリスクコミュニケーション
NHK解説委員室
合瀬宏毅

情報氾濫の現代社会

- メディアの多様化
- 必要な人に必要な情報を
- 安全と安心の溝の深さ
- 多い半病人
- 問われているのは対応力

食を巡る事件事故

- 2000年 雪印乳業による集団食中毒発生 1万5千人の患者発生
- 10月 安全性未審査の遺伝子組み替えトウモロコシ、スターリンクを広範囲で検出
- 2001年
- 9月 国内初のBSE感染牛の発見を公表
- 2002年
- 1月 雪印食品の食肉偽装事件が発覚
- 3月 全農の子会社「全農チキンフーズ」の鶏肉偽装事件が発覚
- 5月 「ミスタードーナツ」の肉まんて禁止の食品添加物使用が発覚
- 6月 協和香料化学の無認可添加物使用で、商品自主回収広がる
- 7月 残留農薬問題で、中国産の冷凍ホウレンソウ輸入自粛を要請
- 8月 日本ハムの食肉偽装事件が発覚
- 8月 全国の農家でダイホルタンなど「無登録農薬」の使用が露見
- 2003年
- 2月 イオンがアレルギー物質混入でプリマハムを告発
- 6月 厚労省が魚の水銀基準を発表し、消費者の間で金目鯛など買い控え

- 7月 食品安全委員会が発足。
- 9月 中国から輸入された冷凍エビから抗生物質が検出
- 10月 国内で21ヶ月齢のBSEの牛を発見
- 12月 アメリカでBSEの牛が発見され、アメリカ産牛肉の輸入禁止
- 2004年
- 1月 山口で79年ぶりに鳥インフルエンザ発生
- 1月 アジア各地に鳥インフルエンザ拡大。各国から輸入禁止へ
- 2月 京都で3例目の鳥インフルエンザ感染。
- 2005年
- 12月 アメリカ産牛肉の輸入再開
- 2006年
- 5月 TBSの番組「白インゲン豆ダイエット」で600人以上が腹痛
- 2007年
- 1月 関西テレビ・あるある大事典「納豆ダイエット」でねつ造
- 3月 不二家で消費期限切れの牛乳などを使用して回収へ。
- 6月 ミートホープ社が挽肉偽装
- 2008年
- 1月 中国産冷凍ギョーザに毒物混入。10人が入院
- 7月 魚秀、中国産ウナギを国内産と偽装し販売
- 10月 政府売り渡しの汚染米が食用として流通していることが発覚
- 2009年
- 9月 花王が食用油「エコナ」の販売停止

食の不安と報道

1. 食料の6割が海外から。高くなる加工度
 2. 加速する大量生産・大量流通
 3. 先端科学が食卓へ(遺伝子組み換え)
 4. 消費者の感覚も鈍感に
- 検査精度の向上(一兆分の1まで検出可能に)

課題

- 危機管理の鉄則は、問題の把握と早急な対応
- 適切な広報(誰に対しての情報?)
- 消費者に必要な情報理解力